

(資料)

石川河川公園環境ふれあいワークショップ

●ワークショップの目的

石川河川公園中流域の自然ゾーン約 43ha は、最大川幅が 400m と広いため、蛇行した流れ、中州や水路、一時的な増水による自然な凹凸地形など、唯一、川本来の自然が残り、生き物のための水辺空間が存続している箇所である。

このエリアにおける河川改修やレクリエーション利用は、昔から存続してきた河川の多様な機能や生態系を断ち切ってしまう恐れがあるため、自然との共存に配慮された改修工法の検討やレクリエーションの場の整備手法を導いていく必要がある。

- そのためには、公園の整備や管理を行う行政と、公園を利用しながら川の自然に親しむ地域住民が互いに協力して、より自然豊かな河川環境を育てていくことが大切である。

以上のことから石川河川公園自然ゾーンを川本来の自然環境の回復や希少植物の保全などを府民との協働で実施していく区域として位置付け、ワークショップ方式により地域住民や市民団体、行政、学識者など、様々な分野の人々が協力して、より多くの生き物が棲める環境を作り出していくことを目的とする。

また、このワークショップにおいて、自然ゾーンの管理方法等についても検討し、将来は地域住民が行政支援のもと自主的に維持管理作業や様々なイベントの実施を行っていくことを目指す。

●主な活動内容

- ・自然ゾーンの生き物調査
- ・自然の復元実験
- ・竹林の管理実験
- ・ミゾコウジュの育成管理
- ・整備プランや管理手法の検討
- ・石川の自然とのふれあいイベントの実施
- ・河川の清掃活動

●経過

- ・平成 10 年度 自然ゾーンの管理運営計画を確立するために学識経験者、市民団体、行政による検討委員会設立 検討委員会 2 回実施
- ・平成 11~13 年度 地域住民、市民団体、ボランティア団体、学識経験者、行政などの参加によるワークショップ及び市民参加イベント等 47 回実施 (延べ参加者数 8 6 9 人)

●成果

自然ゾーンの一部 8 ha においてワークショップでの提案に基づき、要望に沿うかたちで湿地やわんど等の整備を完了。

●今後の予定 (平成 14 年度~)

ワークショップの運営を NPO へ委託 整備や管理手法検討ワークショップや様々なイベント 13 回実施予定

併せてボランティアとのつなぎ役となるボランティアリーダーの育成を行い、公園開設後の維持管理を行政と共にボランティアの協力により実施していく。

石川河川公園 位置図

